

いもだちのときちゃん

「いもだちのときちゃん」を読んで

3年 R・Kくん

このお話では、しっかり者のさつきがのんびりやのときちゃんを心配したお母さんにたのまれ、いつもいっしょにいます。最しょさつきはときちゃんのがのんびりすぎて、いやになる事がありました。けれど最後には、ときちゃんの考え方や気持ちを理かいでき、ちがう考えもいいなと思えるようになっていくお話です。

ときちゃんの考え方は他の人とちよつとちがいます。たとえばカメのこうらに何が入っているかを考えて、思い出がつかっていると云います。ぼくは生き物の事が好きなので、体の中にはふ通に内そうが入っているのを知っています。だからときちゃんのような考え方はしないので、おもしろくていいなと思いました。

ぼくが一番心に残ったのは、さつきとときちゃんが同じ「スモスを見て、「きれい」と心を通わせた所です。それまでさつきがときちゃんの事を助けるような関係だったけれど、さつきがときちゃんの真ねをしているうちに、ときちゃんの考え方ももいいなと思えるようになったので、二人の関係が対等になれたからです。

ほくにも似たような体験があります。友だちと公園でいっぱい遊ぼうとしていた時、友だちがすつとぼくの知らないゲームの話ばかりして、全然遊ぼうとしないのでイライラしました。でもその後そのゲームをやってみたら、確かに面白かったです。友だちの言った通りでした。最しょ自分の意見と合わなくても、それがダメだと思わず受け入れる事が大事だと思いました。ときちゃんがかわった人だけれどぼくの周りにも色々な人がいるので、そういう人とも幸せになれるいいお話だと思えます。そういう人との関係をききすこうと努力すればぼくの世界ももっと広がるという事をこの本で学びました。